



一円電車の前で記念写真を撮る参加者

まちの話題

「一円電車」定期運行 始まる

大屋町明延で、4月10日、一円電車くろかね号の乗車体験会が行われ、県内外から約300人が訪れました。

一円電車は、国内有数のスズ産出地だった明延鉱山が昭和62年に閉山したのに伴い廃止され、明延に保存、展示されていました。

地元住民らでつくる「鉱石の道」明延実行委員会では、平成19年、閉山20周年に合わせ復活し、その後は毎年秋に開くイベントのシンボルとして、走行してきました。昨年10月には、寄せられた寄付金で約70万の常設レールを敷設して、定期運行の準備を進めてきました。

この日の参加者は、一円を寄付して復刻切符を受け取り、乗車。揺れる車体に昔を懐かしんだり、写真を撮ったりして楽しんでいました。

乗車体験会は今後、毎月第1日曜日に開催される予定で、一円電車安全運行推進委の小林政数委員長は「多くのの人に来てもらってありがたい。月1回だけで、運行の日が楽しみです」と話していました。

【お問い合わせ】

あけのべ自然学校

(☎) 6688-0258

「近所の底力」 初期消火協力者を表彰

市では、三宅地区内で発生した雑草火災を早期に見、適切な消火活動を実施し、山への延焼を食い止めたとして地元の5人を表彰しました。

火災は4月14日午前10時ごろ、休耕地の枯れ草を燃やした火が飛び火し発生したもので、約1600平方メートルを焼いて鎮火しました。火災の発生に気づいた5人は、三宅地区内の消火栓にホースをつないで放水し初期消火にあたりました。元消防団で、近所で気心の知れた仲間チームワークで手際よく消火活動が行われました。



初期消火をたたえて表彰された5人(向三宅公民館)

感謝状受賞者

は、写真左から養父市三宅の西本芳暎さん、秋山昭司さん、井上喜代美さん、井上隆章さん、井上隆夫さんです。

地域防災の見本となるような活動でしたが、やはり、災害時に地域を守るのは日頃からの近所付き合い、「近所の底力」ではないかと再認識させられました。